

2022.1.19 第26回 都市美対策審議会 政策検討部会資料

旧市庁舎街区活用事業における 景観形成について

事業者

代表企業

三井不動産株式会社

構成員

鹿島建設株式会社

京浜急行電鉄株式会社

第一生命保険株式会社

株式会社竹中工務店

株式会社ディー・エヌ・エー

東急株式会社

株式会社関内ホテルマネジメント

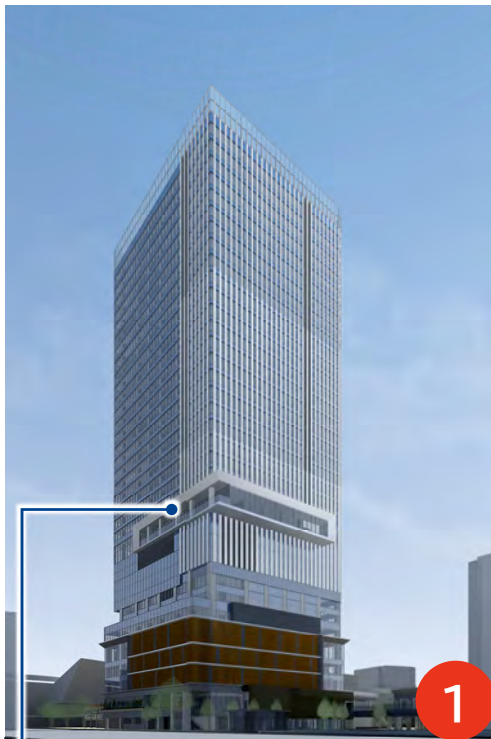
1. 遠景	2
① 昼景	2
② 夜景	3
③ 昼景の比較	4
④ 重要視点場より	5
2. 近景	6
① 駅側	6
② 駅側(改札口正面)	7
③ 駅前広場	8
④ くすのきモール	15
⑤ 尾上町通り側(昼景)	16
⑥ 尾上町通り側・行政棟妻面(夜景)	18
3. 保存活用	19

1. 遠景①昼景 【指摘事項1】



■高層棟の高層階は、上昇感ある縦ラインにより空に溶け込むイメージを醸成

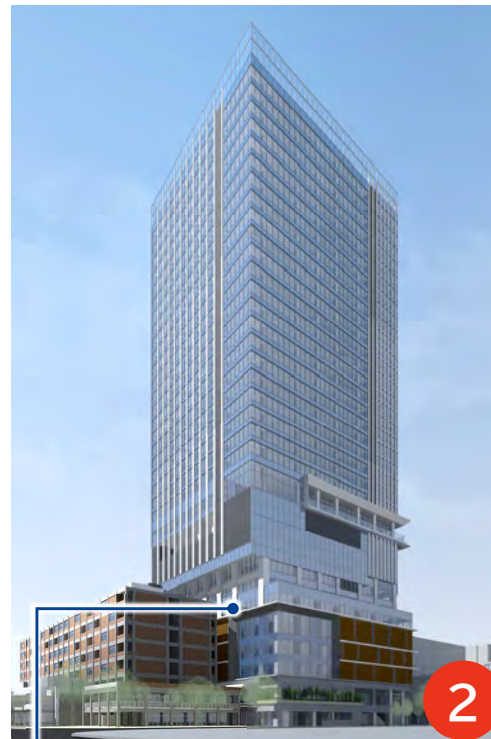
①尾上町通りからの見え方



新たなランドマークとなる11階オフィスロビー

- ・中層部と高層部の境界に水平要素を大胆に加えることにより、関内地区の新たなランドマークとしての存在感を強調

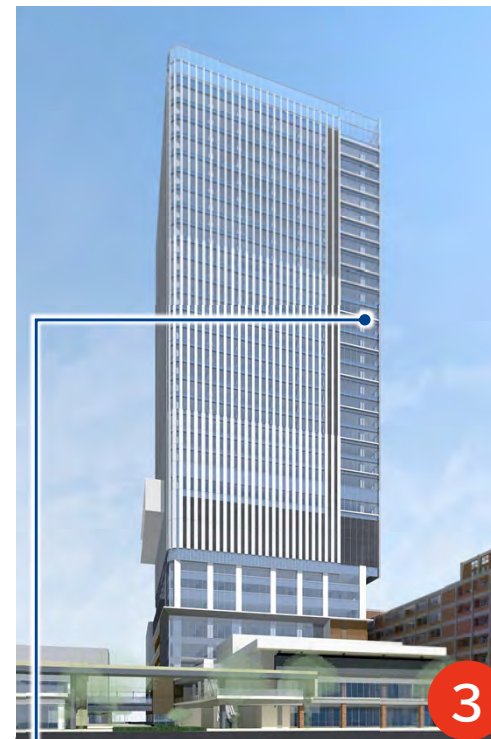
②横浜公園からの見え方



水平ラインによる31mラインの継承

- ・行政棟の31mラインを意識した水平ラインを設置
- ・北東方面から見た際の中低層部の圧迫感を軽減し、行政棟と調和した外観となるように計画

③関内駅前からの見え方



行政棟の水平要素を展開

- ・水平フィンを設置、行政棟との関係性を構築し、単調な外観とならないように配慮

④大通り公園からの見え方



空に溶け込む頂部

視線を惹きつける曲線

- ・駅前広場からの人の視線を海側へ誘導

1. 遠景②夜景 【指摘事項1】

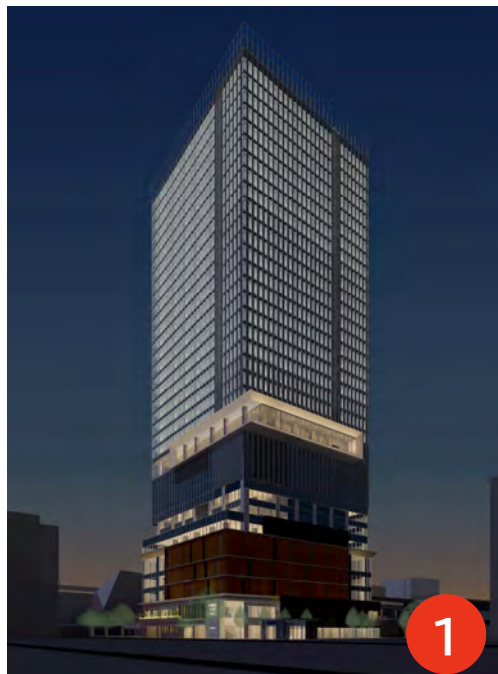


- 11階のオフィスロビー階の暖色照明を夜景の最大の特徴とする
- 頭頂部照明は下記の通り、演出を検討

従前案 頂部演出照明無し

尾上町通りからの見え方(北西)

横浜公園からの見え方(北東)



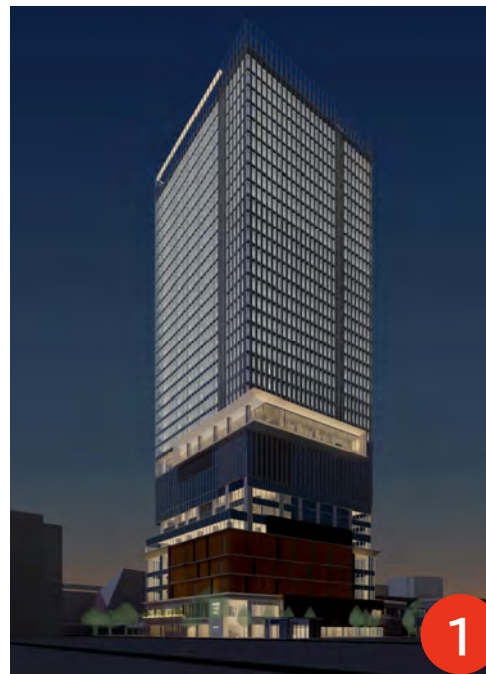
11階オフィスロビーとエデュテインメントの開口部により、魅力的な夜景を演出

- ・関内の地域性に配慮し、中低層部で関内の賑わいを演出し、高層部では演出を控える

検討案 頂部に演出照明あり(北東面のみ)

尾上町通りからの見え方(北西)

横浜公園からの見え方(北東)



従前案に加えて、頂部の北東面に水平の演出照明を追加することで、海側からの遠景にも配慮

1. 遠景③昼景の比較 【指摘事項1】



■ 夜景従前案・検討案の昼景を比較

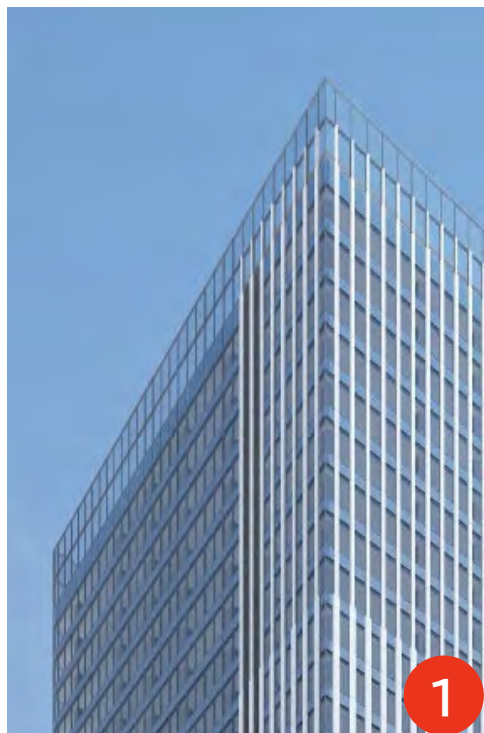
■ 検討案は空に溶け込むデザインとの両立のため演出照明の範囲を限定

従前案 頂部に演出照明無し

検討案 頂部に演出照明あり(北東面のみ)

尾上町通りからの見え方(北西)

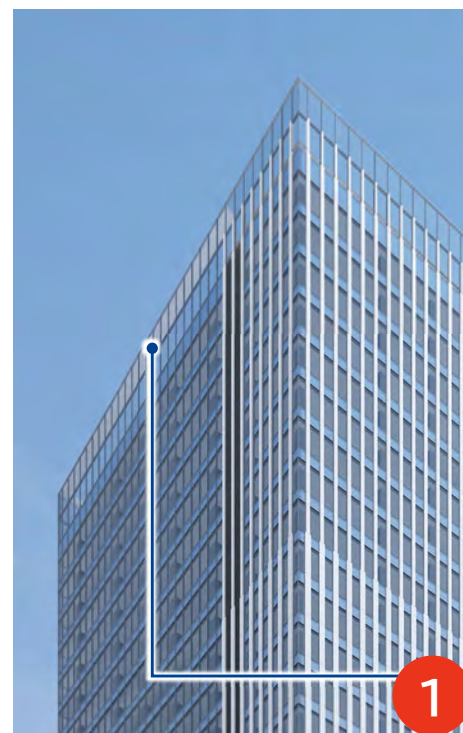
横浜公園からの見え方(北東)



頂部に水平化粧底のない、上昇感と透明感のあるデザイン

尾上町通りからの見え方(北西)

横浜公園からの見え方(北東)



頂部の照明を反射するための水平化粧底が必要。
演出照明用の化粧底が「空に溶け込むデザイン」を阻害しないよう、
演出照明の範囲をもともと水平ラインが勝っている北東面に限定

2. 近景④重要視点場より 【指摘事項1】

■空や水に溶け込むデザインとし、シンボル性と周辺景観との調和を両立

視点場1:海側より(大さん橋より)

昼景



検討案

夜景



視点場2:山手より(山手イタリア山庭園より)

昼景



検討案

夜景



—— 視点場 ——

視点場1(大さん橋)



視点場2:山手イタリア山庭園

2. 近景① 駅側 【指摘事項2】

- 行政棟のレンガ調を外観のベースとして継承し既存建物と調和を図る
- 水平ラインで一体感ある駅前空間を形成、新旧のデザイン要素を繋ぐ



昼景



・白の水平ラインと階段、エスカレーターの斜めのラインを組み合わせ、デザインを構成

夕景



・水平ラインやLVA正面は内照式照明を仕込み、未来への再生を印象付けるデザインとする

※今後の詳細検討結果によっては、照明発光サインの位置・サイズ・標記内容について変更となる可能性もあります。以降のページも共通。

2. 近景② 駅側(改札口正面) 【指摘事項2】

- LVA棟は行政棟の伝統や品格を踏襲したレンガ素材のファサードとする
- 駅前広場に対して開放的な設えとし、広場と一体となった賑わいを演出
- 夜間照明はデジタルサイネージなど新しい技術を駆使し、新しい関内の魅力を発信



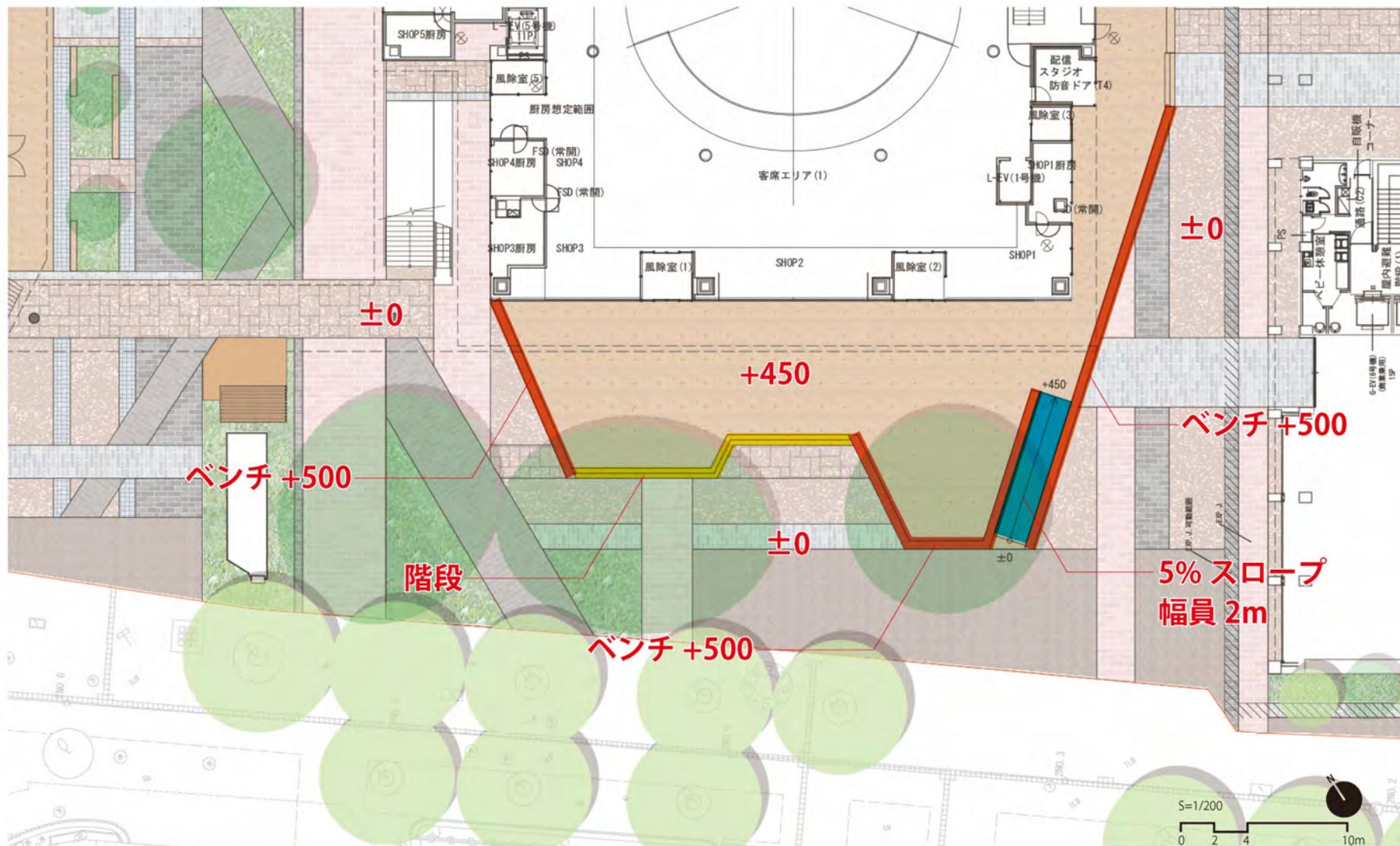
昼景



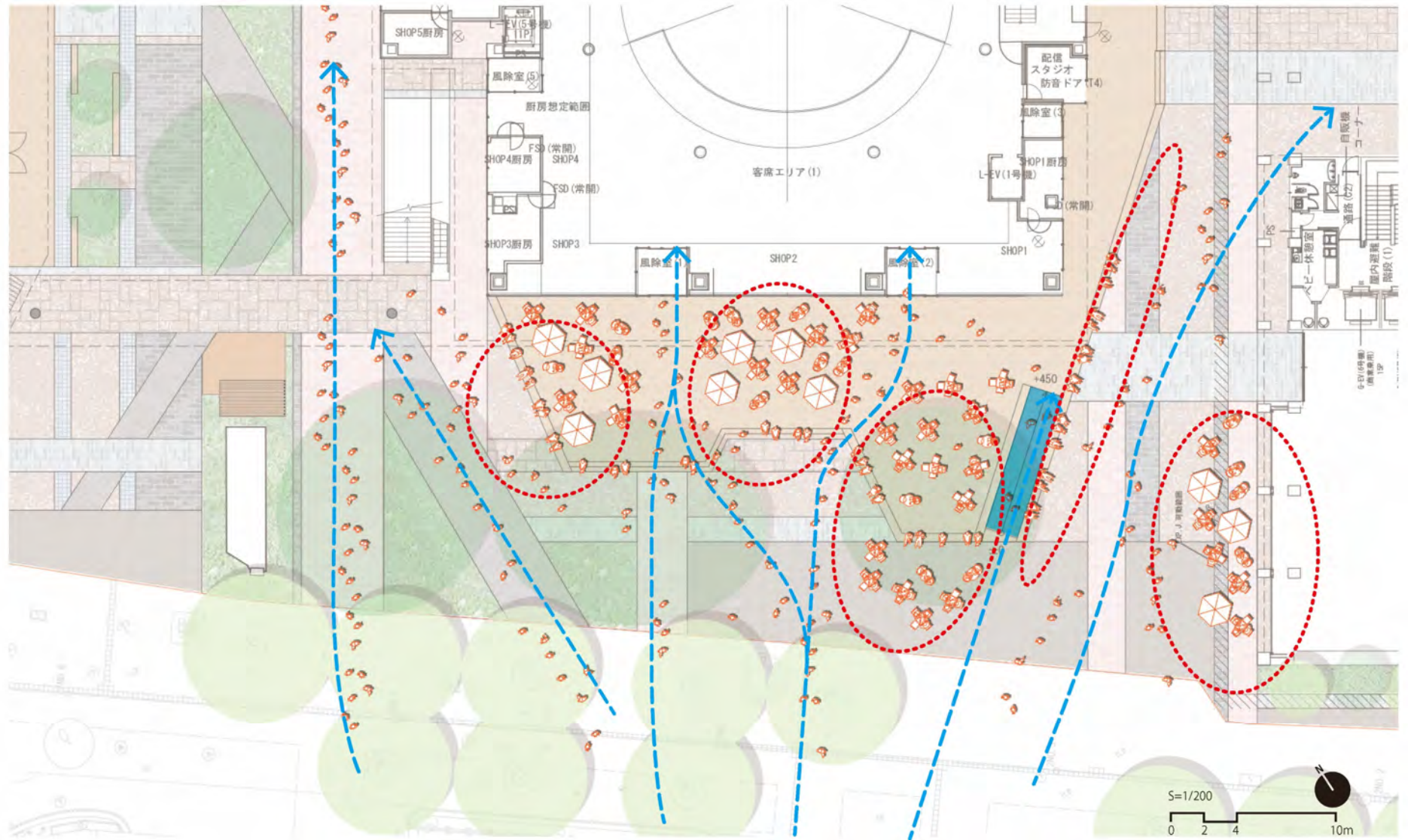
夕景



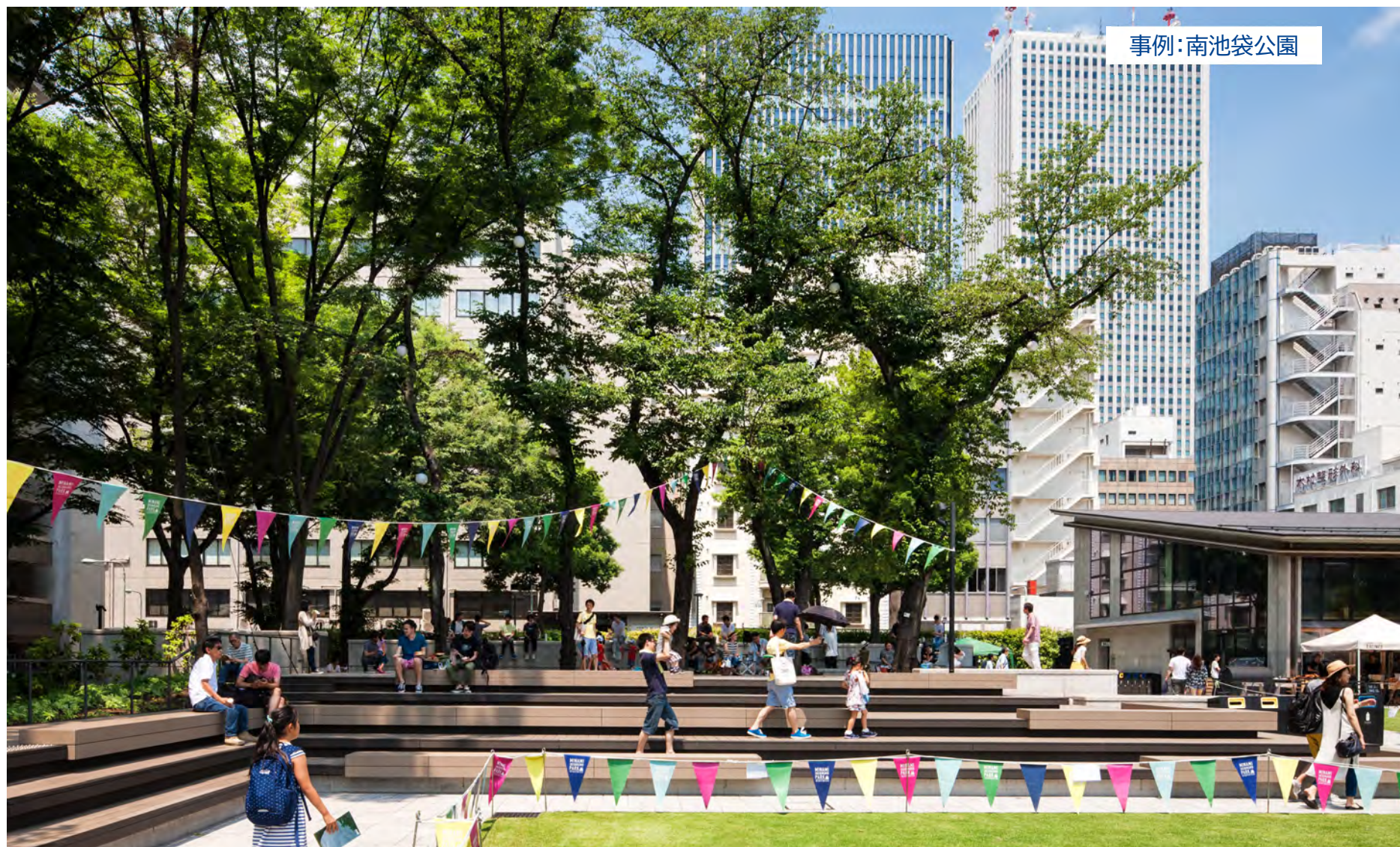
■駅前広場平面図



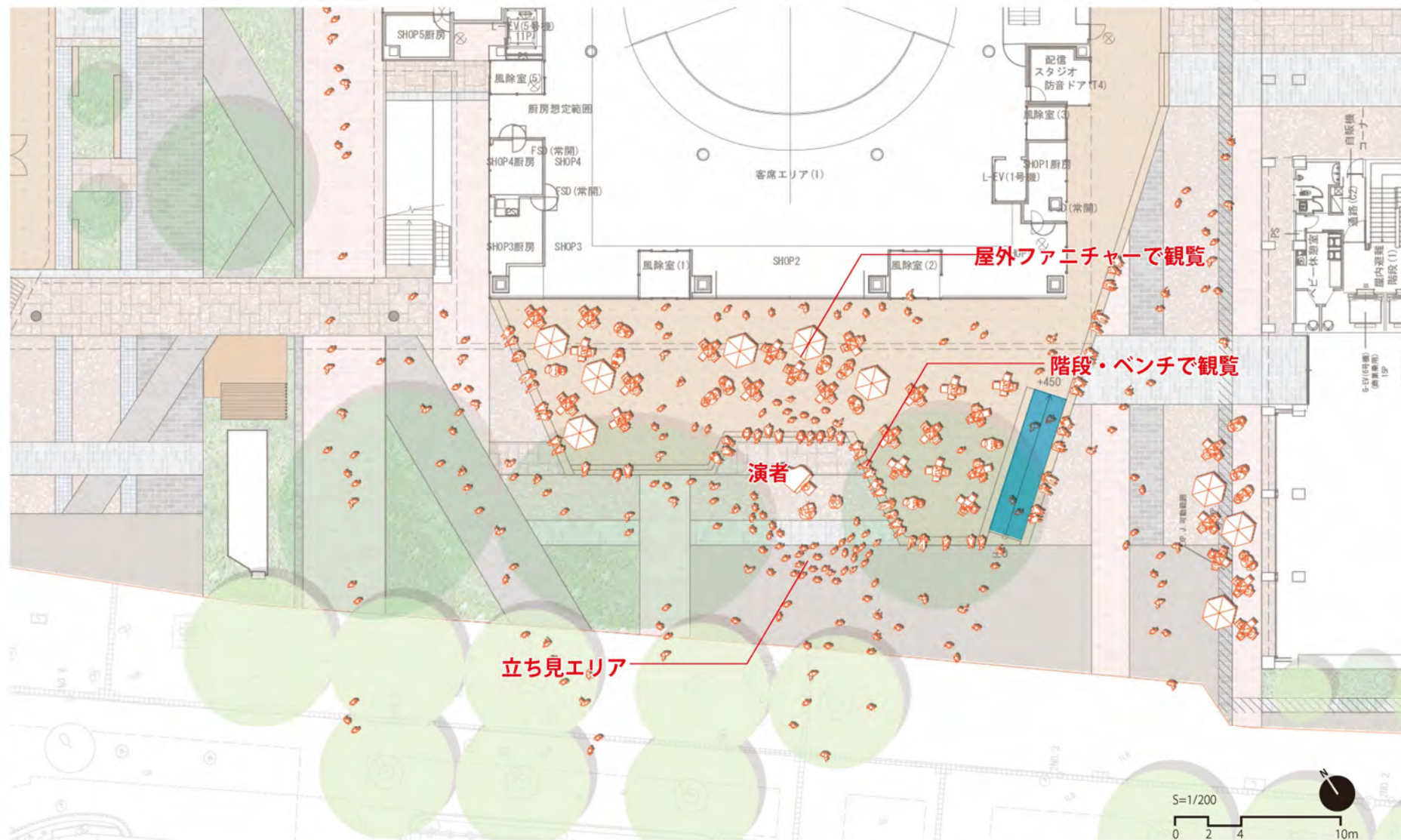
■ 日常時の動線と滞留空間



■ 日常時の使われ方イメージ



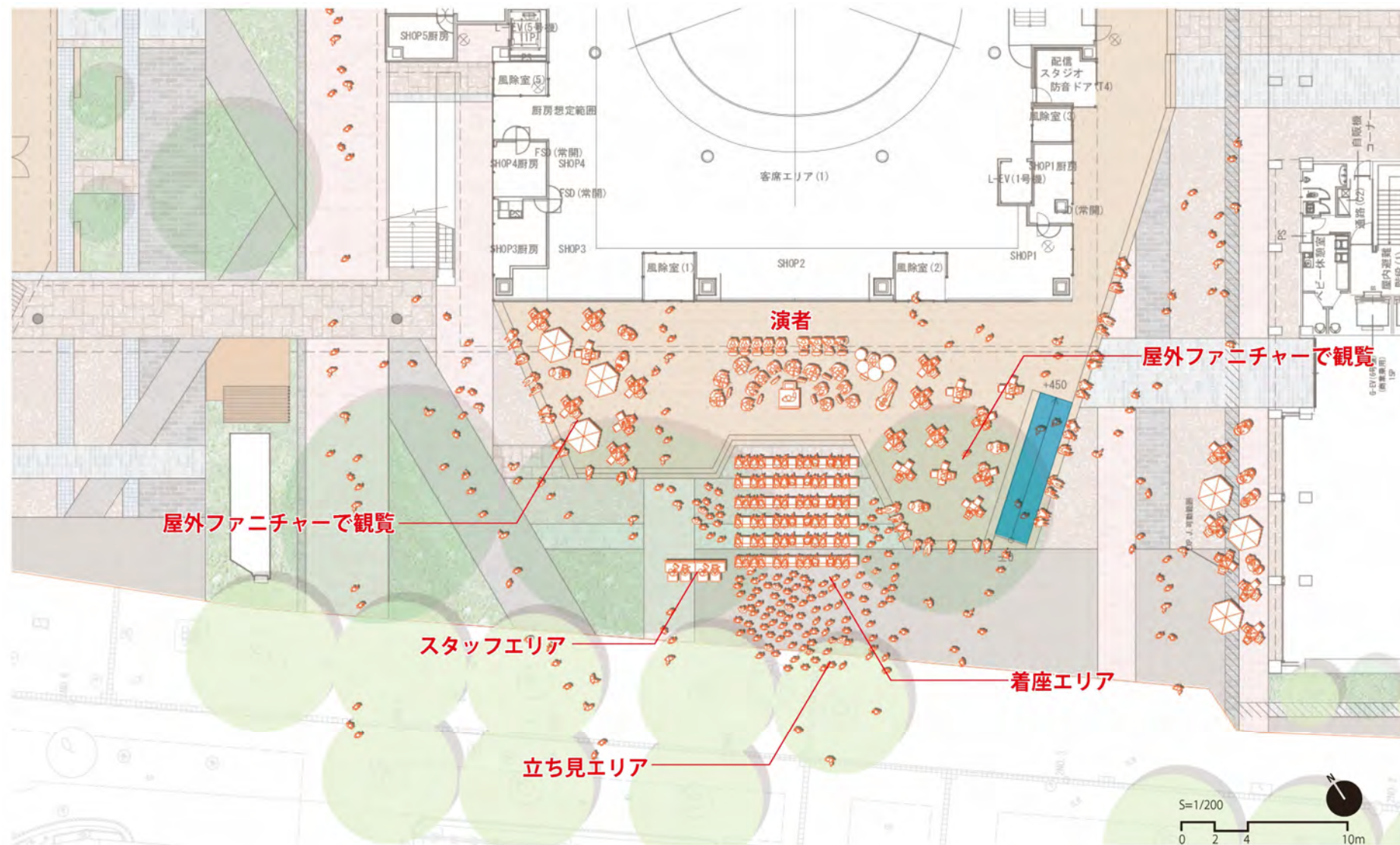
■小規模なイベント時の使い方(デッキ下をステージとして想定)の例



■ イベント時の使われ方イメージ



■大規模なイベント時の使い方(デッキ上をステージとして想定)の例

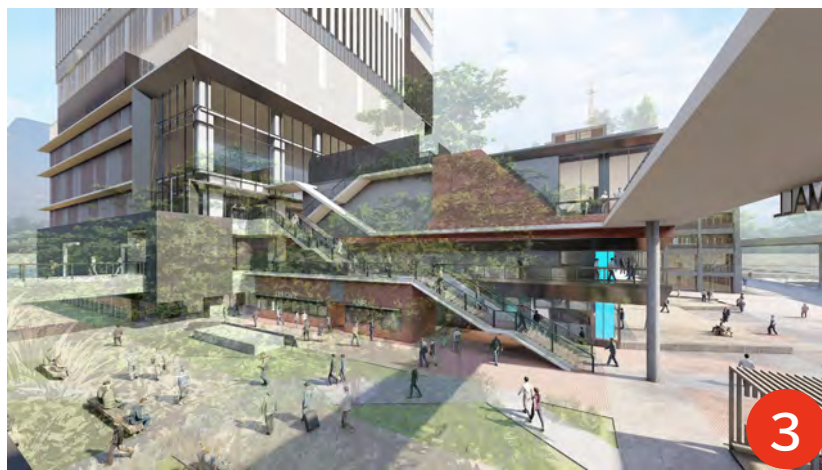


■ イベント時の使われ方イメージ



2. 近景④くすのきモール 【指摘事項3】

- ゲート内側は緑が溢れる落ち着いた憩いの空間を演出
- 各建物に白いラインを強調させ、街区全体デザインの調和を図る



・白いラインを階段に合わせて斜めとし、人々の動線と一体化した上昇感のあるデザインとする。

・緑と憩いの場で構成されたくすのきモールは、駅前広場と違った賑わいを創出する。

2. 近景⑤尾上町通り側(昼景) 【指摘事項4】



- 高層棟低層部外壁は、行政棟とのデザイン的な繋がりを重視
- デザインパネルの配置パターンをランダムにし、ボリューム感を軽減
- ビジターフロントは、デザインコードである白の水平ラインを基調としたシンプルなデザインで構成



・低層部の外装では、行政棟と色合いの近いデザインパネルを用いる。



・行政棟の31mを強調するため、低層部の水平ラインを31mより下に設定する。

2. 近景⑤尾上町通り側(昼景) 【指摘事項4】



- 建物コーナー部はガラス張りとして商業空間の顔出しを行い、周囲へ賑わいを滲み出させる
- 街区内に人々を誘引するため、エスカレータの配置の工夫や欄間照明で視認性をあげる



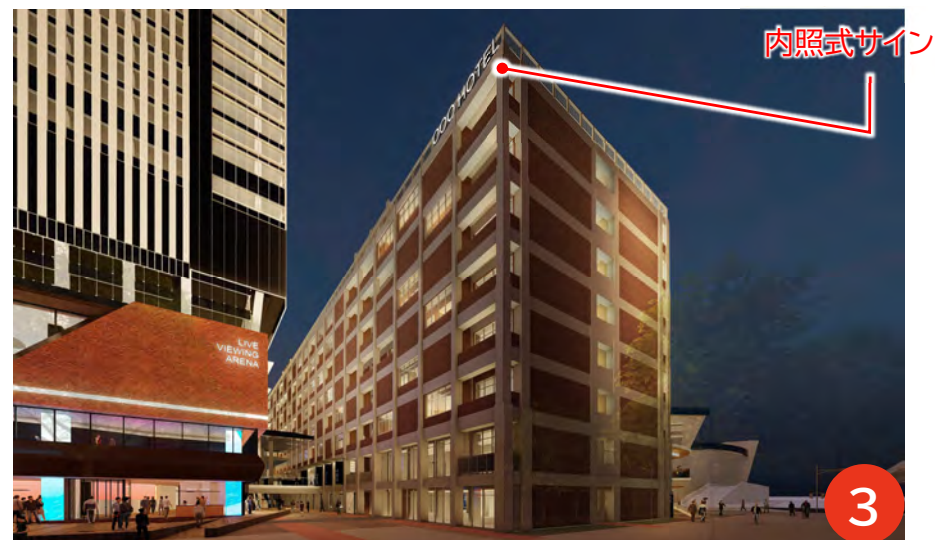
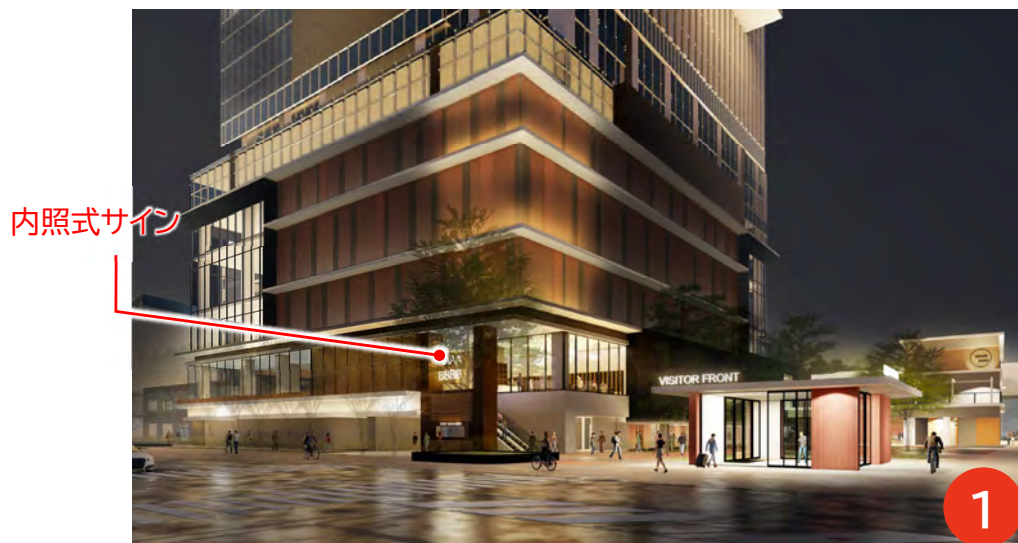
・壁を抜き、抜け感のあるサインデザインを計画。



2. 近景⑥尾上町通り側・行政棟妻面(夜景) 【指摘事項4】



- 明るすぎない落ち着いた夜景の中で、村野藤吾建築作品の輪郭を際立たせる
- 開口がなく単調なファサードの妻面に対し、ライトアップさせて光の陰影で演出



復元的整備

④議場円形照明



- センターロードにてデザインモチーフの継承を検討

現位置活用

⑦シンボルツリー(くすのき)



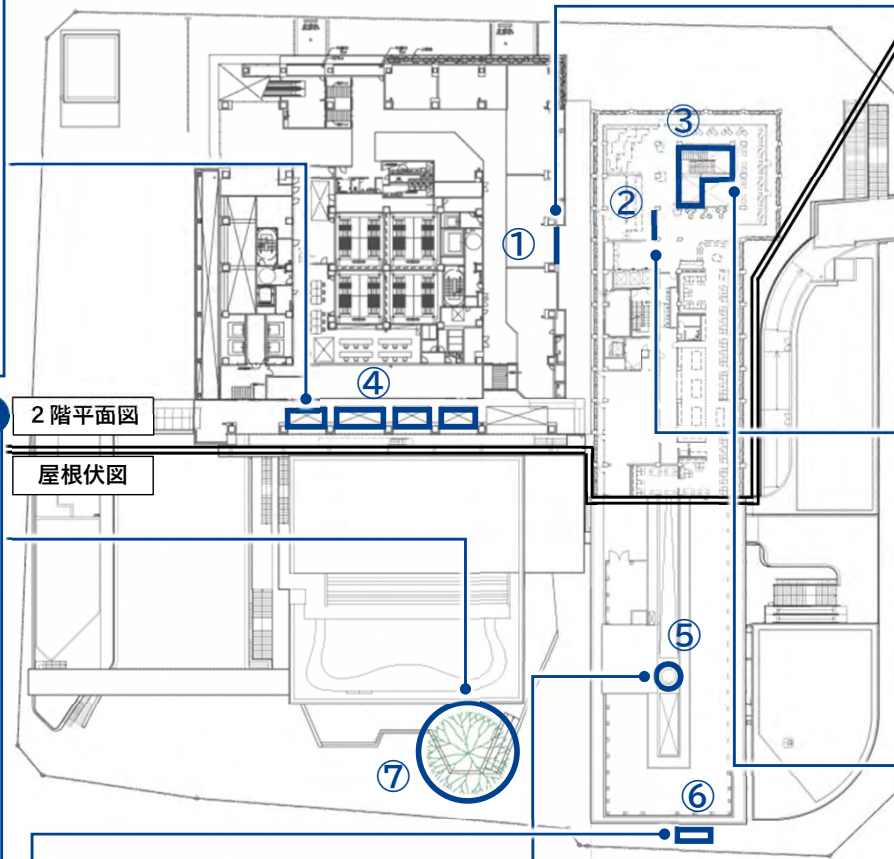
- 駅からの来街者のシンボルであった、くすのきを駅前広場のシンボルとして現位置保存

⑥魚市場の碑 (場所未定)

- 敷地内の外構にて移設を検討



■旧市庁舎を彩った歴史と記憶を継承、再生



移設

①陶壁《海・波・船》

作:辻晋堂
地:青

- 「継承の道」壁面にて一部活用(壁画利用)を検討



現位置活用

②陶壁《海・波・船》

作:辻晋堂
地:白

- 行政棟2階で現位置保存



移設・復元的整備

③ 大階段

- ホテルロビーの吹抜けエリアにて意匠の再現を検討



継承

展示スペース (場所未定)

- 土地の記憶と歴史の展示を検討
- ピアノのある情景
ホテルロビーにて再現を検討

復元的整備

天井レリーフ (場所未定)

- デザインモチーフとして復元的整備を検討



現位置活用

⑤屋上鉄塔

- 関内のランドマークである屋上鉄塔は引き続き現位置で保存



移設

愛市の鐘 (場所未定)

- 移設等を検討

